

# 看護師職能委員会 I（病院領域）活動報告

---

I 構成：委員長 村井由紀子 副委員長 池下愛子  
委員 8名

II 職能委員会開催状況：10回

III 検討事項並びに活動状況：

1. 令和元年度職能合同交流集会

日時：6月16日（日）15：00～16：30

テーマ：保健師・助産師・看護師 I・看護師 II 職能委員会活動の報告及び全体討議

参加者：481名

2. 職能委員会の役割の確認

3. 職能委員会活動目標

- 1) 行政保健師との交流を図り、双方の役割の認識、仕組みを理解する。
- 2) 県内有床病院におけるクリニカルラダーの活用状況を明らかにし、課題発見に繋げる。

4. 検討会設置（○印はリーダー）

1) 地域包括ケアシステム推進に向けた行政保健師と看護管理者の連携に関する交流会

委員：4名 ○池下愛子 山崎文江 柴田育代 福井大輔

開催状況：10回

目的：看護管理者と行政保健師との交流会を開催し、双方の役割認識、仕組みを理解する。

内容：日本看護協会看護師職能委員会 I 病院領域の活動に沿って、地域包括ケアシステムにおける看護管理者の連携推進に向けた意見交換の場として、保健師、看護管理者を対象に交流会を開催し、情報共有・課題発見を行う。

2) 病院におけるクリニカルラダー活用状況

委員：4名 ○松賀晴美 平井有美 内海恵子 米谷小百合

開催状況：10回

目的：県内有床病院におけるクリニカルラダーの活用状況を明らかにし、導入推進に向けた課題発見に繋げる。

内容：看護協会員が所属する県内有床病院を対象にクリニカルラダーの活用状況についてアンケートを実施し、導入推進に向けた今後の課題を見出す。

5. 活動報告

1) 地域包括ケアシステム推進に向けた行政保健師と看護管理者の連携に関する交流会の開催とアンケート調査

日時：12月21日（土）9：30～12：00

場所：香川県看護協会 看護研修センター

目的：看護管理者と行政保健師との交流会を開催し、双方の役割認識、仕組みを理解する。

対象者：看護管理者（副看護師長以上の役職とする）・保健師

参加者：51名

結果：地域包括ケアシステム推進に向けた行政保健師と看護管理者の連携について、2施設より発表の後、グループ討議とアンケート調査を実施した。

アンケートの結果、実践例を通して行政との関係が理解できて良かった、知識を得る機会となった等の意見があった。理解度や満足度は高く、知識の向上や看護実践への活用につながられており、今回の交流会は有用であった。また、事例を通じて行政保

健師の活動の一部を理解する事にもつながり、地域包括ケアシステム推進を図るための第一歩となった。

課題：地域包括ケアシステムを推進していくためには、看護管理者と行政保健師の顔の見える連携、さらには連携できる仕組み作りへと整備していくことが重要である。職能委員会においても、看護師と保健師がお互いの役割を理解しながら連携できる仕組みづくりに向けて、合同で企画し協働していく必要がある。

## 2) クリニカルラダーの活用状況についてのアンケート調査

目的：県内有床病院におけるクリニカルラダーの活用状況を明らかにし、導入推進に向けた課題発見に繋げる。

対象：香川県看護協会会員の所属する有床病院 65 病院

結果：対象の 65 病院にアンケートを行い回収率は 46.2%だった。回答のあった施設のうちクリニカルラダー導入率は 77%であった。導入している病院は、JNA ラダーを参考に施設に合った形で変更を加え使用している病院が 48%で最も多かった。運用する上での問題点として「管理者への教育」「認定者の負担」等の共通する問題が上がっていた。

クリニカルラダーなしと回答した病院の中で今後 JNA ラダーを導入する予定の病院は、67%、まだ着手できていない病院は、その理由として「教育研修を行う時間が無い」、「JNA ラダーに関する情報不足」と答えていた。また、導入する予定がないと回答した病院の理由は、「研修が行えない」、「教育担当者がいない」、「環境が整っていない」、「JNA ラダーに関する情報不足」であった。

考察：今後クリニカルラダー導入、JNA ラダー活用を推進していく上で、情報共有の場が必要である。管理者への教育・研修担当者の育成・ラダーの評価方法などの運用上の問題を解決につなげるような活用事例の提供・交流会の開催が必要である。

## 6. 出席会議

### 1) 令和元年度 全国看護師職能委員長会 I 病院領域

日時：8月21日（水）10：00～16：00

場所：東京都渋谷区 アルカディア市ヶ谷 私学会館

出席者：村井由紀子

内容：

【全体会】10：00～12：00

- (1) 本会役員紹介
- (2) 令和元年度 重点政策・重点事業について
- (3) Nursing Now について
- (4) 2019 年度 都道府県看護協会支部役員等研修について
- (5) 看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン及び活用ガイドについて
- (6) 診療報酬改定に関する進捗状況について

【看護師職能委員長会 I 病院領域】13：00～16：00

- (1) 2019 年度 看護師職能委員会 I 病院領域 活動方針
- (2) 情報提供「誤接続防止コネクタの導入について」
- (3) グループ討議

テーマ 1 地域包括ケアシステム推進に向けて看護管理者の連携をどのように進めるか

テーマ 2 地域包括ケアにおいて病院の看護師が強化すべき能力と人材育成に関する現状

### 《まとめ》

地域包括ケアにおける看護提供体制を考えるうえで、病院看護師の役割や求められる能力の明確化、そして地域連携のための仕組み作りが必要である。

患者が地域の中で安心して生活できる基盤が出来ていなければ、地域包括ケアシステムはう

まく起動しない。2025 年を前にして、在宅を病院の病室ととらえ、病院で行っていたケアをどう地域の中で行っていくか、どう継続していくかなど看護管理者として考え解決していかなければいけない課題はたくさんある。県内の医療計画や各支部の動向にももっと目を向けなければならないと感じた。

## 2) 令和元年度 地区別職能委員長会 I (病院領域)

日 時：10月16日(火) 9:00~13:00

場 所：愛媛県松山市 ANA クラウンプラザホテル松山

出席者：村井由紀子

内 容：

(1) 看護師職能委員会 I 委員会報告

(2) 地域包括ケアシステムの推進に向けて看護管理者の連携に向けた好事例報告

(3) 討議事項

地域包括ケアを支えることができる病院看護師の育成に関する現状と課題

(4) その他

活動に関する情報収集シートの結果について

抑制に関する報道についての情報提供

### 《まとめ》

病院は、地域に繋いでいくスタートラインであり、病院で働く看護師には重要な役割が求められている。病院看護師が生活を見る視点を養うこと、看護管理者と行政保健師との連携推進に取り組んでいく事が看護師職能委員会の大きな課題である。看護管理者と保健所・市町保健師が協働していく場を設けるところから始めなければいけない。グループワークの中でも、保健師の役割が重要であり、より強いリーダーシップを発揮してもらいたいとの意見が多かった。

『ご当地システム』として地域ごとの看護職連携モデルを構築していくためには、やはり顔の見える連携が必要である。

## 7. まとめ・課題

香川県看護協会職能委員会 I では、日本看護協会看護師職能 I 病院領域の取り組みに沿って、検討会を設け取り組んできた。

1つは、昨年度から引き続き日本看護協会重点政策に挙げられている「地域包括ケアにおける看護提供体制の構築」である。今年度は、「地域包括ケアシステム推進に向けた行政保健師と看護管理者の連携」をテーマとして、交流会を開催した。病院看護管理者と地域包括支援センター保健師が連携してかかわった認知症患者への介入事例について発表し、その後のグループワークでは活発な意見交換が行われた。保健師の参加により、それぞれの立場から日頃問題と感じていることや今後の課題について話し合うことができた。市町単位での実効性のある看護職連携を推進していくために、看護師と保健師がお互いの役割を理解しながら連携できる仕組みづくりに向けて、今後保健師職能と合同で企画し協働していく機会を設けたい。

もう1つの活動として、「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」活用状況の把握と課題の抽出に向けた調査を実施した。日本看護協会では、少子超高齢化社会の中、あらゆる場で活躍できる看護師の育成を目指しクリニカルラダーの普及推進事業に取り組んでいる。今回実施したアンケート調査から、今後クリニカルラダー導入、JNA ラダー活用を推進していく上で、情報共有の場の必要性が示唆された。看護の質向上に向け、香川県全体でのクリニカルラダー導入推進に向けた取り組みを行っていききたい。